

金敏也。所以稱「敏降庄」焉。とある。敏字に因つて説を爲したもので、俗傳探るに足らぬ。

クラベ 倉部 石川郡中村郷に屬する部落。寛文十年から天和四年まで棟部村と替いた。源平盛衰記壽永二年五月の條に、『源氏は安宅、湊よりおちて、今湊・藤塚・小河濱倉部・饒河打過て大野庄に陣をとる。』と見える。

クラベウチ 棟部氏 白山記に、『神主・寛弘以來上道氏、始々、神人者守部・棟兩流、共虫丸、未孫也。』とある。この棟は棟部であらう。三州奇談は守部・棟部二家と書いて居る。

クラベガハ 倉部川 石川郡に在る。手取川七ヶ用水の中村用水が、松任を經、倉部の西に於いて海に入るものを倉部川といふ。倭漢三才圖會に、『松任本誓寺。初天台宗。於倉部川。親鸞。改宗爲弟子。』とある。

クラベゴウ 棟部郷 石川郡の古郷名で、和名抄に見えるが訓を關いてゐる。加賀志徴には津田鳳卿の棟部考古遊記に、和名抄の古本に棟部を久良波之と訓ずるとあるを引いて、然らば倉部が二字になつたものだらうと論じて居る。後世倉部村がある。

クラベコウコウキ 棟部考古遊記 一冊。津田鳳卿著。天保十一年二月に成つたもの。石川郡倉部村附近に遊んで、舊蹟古實を搜索した記事で、漢文で書かれてゐる。

クラベハマ 倉部濱 石川郡に屬する。越前登賀三州志に、天正五年九月長一族の首を棟部濱に梟したとある。

クラベホ 棟部保 石川郡に在つた。越前氣比神社の建曆二年九月氣比神宮所當米目錄に、『棟部保加賀國、件保往昔御神領圖免出七

町也云々。』とある。

クラマイ 藏米 百姓が藩侯に對して上納する年貢米は、藩内數十所に設置せられる御藏に收納せられた。御藏米又は御請米といふのが是である。

クラマイキツテ 藏米切手 藩の收納した米穀を賣出した切手で、一に御印物とも稱せられ、一枚に記載せられる數量は百石又は百五十石であつた。御算用場から發行せられ、米仲買によつて米場で賣買せられた。

クラマヤマ 鞍馬山 鹿島郡小島の西方に在る山。高さ七二米。

クラミ 倉見 河北郡井上庄に屬する部落。クラミ 藏見 承久三年注進の能登國田數目録珠洲郡の中に、『藏見村十四町三段九、元久二年檢注出。』とある藏見村は、今の本村である。同村光樂寺の鐘銘には若山郷藏見村とあり、能登名跡志にも『此の村を藏見村といひて、元は三崎權現毎年三月九日初丑の日より御神輿出座あり。云々。道々玉居の祭とて、今も村々に餅などつきて祭れり。此の村は終りなれば、藏見の玉居は跡玉居と云謬あり。』と見える。

クラミツ 倉光 石川郡中村郷に屬する部落。寶永誌に、この村領に殿之垣内と稱して、若林長門の居跡があると記する。

クラミツウチ 倉光氏 源平盛衰記壽永二年に加賀國の住人倉光三郎成澄があり、弘安十年十月十一日附北條氏の裁判書に、倉光五郎入道親昭が見え、應永廿一年四月十九日附足利義持裁判の文書に倉光藤増丸があり、隆涼軒日祿長祿三年十一月十一日の條に倉光若狹守があり、親元日記文明七年七月廿三日の

條に倉光彌次郎光守があり、長享元年九月江州御動座在陣衆着到記に倉光次郎がある。何れも石川郡倉光村に關係のある人だらう。

クラミツカネミツ 倉光兼光 ↓クラミツナリズミ 倉光成澄。

クラミツシヨウ 倉光庄 石川郡に在つた。永正六年閏八月朔日附五井左近將監頼慶判書に、『御料所加州倉光庄代官職之事云々。』とあつて室町幕府領であつた。後世倉光村がある。

クラミツナリズミ 倉光成澄 源平盛衰記壽永二年四月に、木曾義仲が加賀國の住人林六郎光明、倉光三郎成澄等を大将として、越前の壁城に遣はしたとあり、又六月には、平家が成合で返し戦つた際、加賀國住人倉光三郎成澄二十餘騎で攻懸けたとある。備中の住人妹尾太郎兼康を生捕つたのも成澄であつたが、同年閏十月備中に赴きて兼康の爲に欺き殺された。源平盛衰記の此の條では成澄を兼光として、兼光は白山權現の御領、末寺末社の庄園を没倒し、神事佛寺の供米を抑制し、剩へ平泉寺の長吏齋明の宥されたを論訴して、六條河原に首を刎ねたことから、この應報を得たものだとしてゐる。

クラミツノヤカタ 倉光館 石川郡倉光領に在つて、今館山と稱し、倉光三郎成澄の居であつたといふ。

クラミツホ 倉光保 石川郡に在つた。文明十二年十月二日附布施英基・松田貞康の一式式部少輔政照に與へた執達狀に、御料所加州倉光保とあつて、室町幕府領であつた。倉光庄とするものも之に同じい。

クラヤキヘエ 倉屋喜兵衛 大聖寺の市人。

勝田氏、諱は一貫。天保二年江沼郡領見生まれ、藩の御廣式用閉小間物商倉屋仁兵衛に養はれた。算學を西尾一知及び小池余業に學び、菅生石郡神社・山代藥師堂・那谷觀音堂に奉願した。明治五年歿、享年四十。

クラヤド 藏宿 又札差ともいひ、領内樞要の地所々に存した。諸士の知行所に屬する百姓は、地頭の收納すべき年貢米を、地頭の特約せる藏宿に持参し、藏宿は米質と量とを檢して自家の倉庫に收納する。地頭たる諸士は年中の飯米を豫定し、その他は相場の上下を測つて藏宿に命じ賣却せしめる。藏宿は藏敷料を收めるを業とするものであるが、家政の不如意なる諸士に對して、將來の收納米を抵當として、金融の便を謀ることをも副業としてゐた。

クラキガハ 位川 石川郡林郷に屬する部落。

クリカラ 俱利伽羅 河北郡河村郷に屬する部落。

クリカラゴシヤゴンゲン 俱利伽羅五社權現 河北郡俱利伽羅の手向神社(舊長樂寺)から東に登ると、この附近第一の高地國見に達し、そこにある急峻な石階を百八坂といふ。頂上に五個の石瓮を設け、素盞鳴尊・杵魂突知命・菊理比賣命・國常立命・應神天皇を奉祀して、それを五社權現といふたのであるが、今はその一瓮を失うてゐる。

クリカラザンチヨウラクジエンキ 俱利伽羅山長樂寺緣記 一卷。河北郡俱利伽羅不動の緣起である。

クリカラジヨウ 俱利伽羅城 河北郡俱利伽羅に在つて、今の長樂寺城内であらう。藩